

テルマエ通信は、2010年に創刊された在学生有志によるニューズレターです。

創刊号によれば、名称の「テルマエ」とは古代ローマの公衆浴場のこと。風呂好きなローマ人は1日の数時間をここで過ごしたそうですが、エクササイズに汗を流しては湯につかり、おそらく人生哲学についても語りあったであろうことにちなみ命名したとのことでした。

確かに当大学院には、高度な専門知識の習得だけではなく、社会における問題意識を胸に学び直しにやってくる方々が多く、それぞれが汗をかき、多様な立場から熱く語り合い、複眼的な思考を身につけて成長しています。

さて、本学に入学すると、学生は9つのゼミのうちいずれかに所属し、それぞれの研究を進めます。また、ゼミを横断して参加者を募る研究プロジェクトにも取り組んでいます。

まずは、2018年度の各ゼミから、それぞれの特徴や活動について紹介して

いただきました。

【梅溪ゼミ 経済・社会プログラム】

梅溪ゼミは修士課程5人、博士課程5人（それぞれ休学者を含む）という小規模ゼミですが、それゆえ自由度が高いというメリットがあります。

希望すれば、毎週、論文指導を受けることも可能で、自分のペースで研究を進められるのが大きな魅力と言えます。

梅溪先生は元内閣府審議官として経済・財政政策の企画・立案に関わっていただけでなく、政府代表として日銀金融政策決定会合に出席していた経験を持つなど、経済・金融政策の現場を深く知る数少ない研究者の1人です。

統計データの分析を通じて、背後に潜んでいるものを探り出したい——そんな熱意を持っている人はぜひ梅溪ゼミの活動にご参加ください。

ゼミでは計量経済学の基礎知識が修得できます。新学期が始まってからの2か月で、中室・津川著の入門書を読破しました。

ゼミ生のバックグラウンドはシンクタンク研究員や大学教員、経済記者など多様で、梅溪先生の指導に加え、幅広い視点からのアドバイスも期待できます。

【石山ゼミ 雇用・人材育成・キャリアプログラム】

石山ゼミの紹介です。2018年度は新たに12名のM1の方をお迎えし、修士課程23名、研究生5名、博士課程7名、併せて35名のメンバー構成となりました。昨年度より、ゼミの理念が掲げられ、①楽しい雰囲気、高い水準（Dweek, 2008より）②気兼ねなく失敗できる安全な場をつくる③完璧を目指すより、まず終わらせる（リーン・インより）を心に刻み、日々の研究活動などの学びの場を楽しむことに勤しんでいます。

具体的には、毎週土曜日にはゼミ生が順番に研究発表を行ったり、ゼミ終了後に勉強会が開かれたりすることで、論文作成に向けて石山先生のご指導を受けるだけでなく、ゼミの理念を反映してゼミ生同士で活発に意見交換する場が作られています。昨年度は、夏合宿で岐阜県中津川市を訪れ、高齢者雇用に積極的に取り組む企業を視察したり、春合宿で三浦を訪れ、参加者がリッチピクチャーを発表しあったり、横須賀観光をしたりと、イベントも多数実施されています。



【高尾ゼミ 地域社会・介護福祉プログラム】

高尾ゼミは、地域政策と幸福度、地域コミュニティと介護認知症ケアを研究テーマとされる高尾真紀子教授のご指導のもと、文献購読、先行研究の探し方、質的調査や量的調査の手法を学びつつ議論し論文作成能力の習得を目指しています。今年のゼミ合宿は川越を活性化させている人に焦点を当てての学びを予定しております。

今年度は博士課程5名修士課程1年5名、2年5名、3年6名と総勢20名となりました。研究テーマは、介護（認知症サポーター、介護離職、人材）、高齢者の権利擁護、保育、女性問題（就業継続、疾病、議員の産休、管理職登用、貧困対策）、障害児教育、共生社会、多様な世代の交流、まちづくり、観光等多岐にわたっております。

また、今春高尾ゼミ初の2名の終了生は、お一方が首席でのご卒業。もうお一方が最優秀論文賞受賞という荣誉に輝きました。先輩方のご努力の賜物ですが、高尾教授の豊かなご見識と論理的かつきめ細やかなご指導あつてのことと思われまます。私達も先輩方に続き充実した学びと成長を目指します。

【上山ゼミ 都市空間・まちづくりプログラム】

2018年度の上山ゼミは、上山教授の指導の下、21名（博士課程5名、修士課程16名）が研究しています。

上山ゼミの強みは、修士論文に向けた計画的な研究と研究成果の発信です。毎年、ゼミでは夏に行われる日本建築学会全国大会に参加し、研究論文発表や各分科会に参加し自身の研究を深めています。昨年は広島工業大学で開催されましたが、今年度は仙台にある東北大学で開催される予定です。また、横断プロジェクトに関しては、昨年は10月に浜松市、静岡市を訪ね、行政へのヒアリングと“まち歩き”を行いました。今年度もまちづくりに特徴のある自治体を対象に横断プロジェクトを実施したいと考えています。

【増淵ゼミ 都市文化プログラム】

当ゼミナールは、2018年度、10人の新入生を迎えました。当ゼミナールは留学生の割合も多く、楽しく賑やかな雰囲気の中、様々な研究テーマを持つ学生が、増淵教授の幅広い知識のもと学んでいます。

増淵教授は放送局時代には『水曜どうでしょう』の鈴木貴之氏と番組を作り、

またレコード会社時代には辻仁成の担当及び、新人発掘においては中島美嘉・YUI・オレンジレンジ・チャットモンチーなどの実績を上げています。現在はコンテンツツーリズム、コンテンツによる地域ブランド形成・メディア・コンテンツによる地域振興、コミュニティ再生などの研究を中心に行っています。

昨年度の横断ゼミでは、北海道の人口わずか8000人ほどだが『写真の町』として知れ渡り、人口増加などの成果を上げている、東川町での現地調査や聞き込みを行いました。今年度は神奈川県湘南地区を予定しており、増淵教授とともに、コンテンツツーリズム、聖地巡礼のフィールドワークが行われる予定です。今年度の横断ゼミも有意義な活動を行い、各自の研究に役立てたいと思っています。

【山本ゼミ 地域産業プログラム】

昨年度に退官された岡本義行教授の後を引継ぎ発足した山本ゼミ。山本先生は政策創造研究科1期生の終了生です。つまり、我がゼミの共通項は山本先生をはじめ皆が岡本先生の門下生ということになります。岡本先生の研究テーマの中心が地域活性化です。そこで、門下生の多くは、地域やそれぞれの分野における活



性化をテーマとしています。

山本ゼミの特徴は3点です。1点は、ゼミが情報交換の場になっている点です。研究テーマに共通項も多く、ゼミの中では賑やかな情報交換が盛んに行われています。2点に、皆が実によく喋ることで、これは自由に意見が言える環境である、ということにもなります。3点に、笑顔が絶えないことです。研究は笑うことなく真剣にやるべき、という意見もあるでしょうが、岡本ゼミの時からこのムードは今でも引き継がれており、和気あいあいと居心地の良いゼミとなっています。おそらく、この居心地を好む学生が、我がゼミに集まっているということではないでしょうか。

【真壁ゼミ 地域産業・行動経済プログラム】

当ゼミナールは2017年度に開講いたしました。本研究科においては、比較的、歴史の浅いゼミではありますが、一生懸命に研さん・研究を重ね、皆様と活発、かつ、意義ある議論の場を持つよう努めてまいります。

真壁昭夫先生は旧第一勧業銀行（現、みずほ銀行）にて債券を中心とするディリング業務など金融市場に関する業務

に従事されました。国内だけでなく、ロンドン、ニューヨークでも各種金融関連のビジネスに従事された御経験をお持ちです。

また、各学会やシンクタンクなどにおける政策提言などにも参画され、実務、理論、それを応用した政策提言に精通されていらっしゃるようです。行動経済学の分野では国内初の学界を立ち上げられるなど、国内外で活躍の場を広げてこられました。

こうした広く、深いご見識をお持ちの先生のご指導のもと、当ゼミナールでは、まず、マクロ経済への理解を深めることを重視します。“今、何が起きているか、問題は何か、その解決策は何か”を自分の言葉で考え、伝える力をつけます。その上で、各人の関心に応じた研究を進めます。今年度の具体的な研究分野として、労働生産性の分析、資産運用の高度化、個人の資産運用に関する研究などを進めています。

今後、メンバーの研究対象としたいテーマ、関心に合わせて柔軟にゼミナールの運営を進め、一人一人がより広い視野と洞察を持つことが出来るよう努めてまいります。

【井上ゼミ 中小企業経営革新プログラム】

井上ゼミのテーマは新事業創出やイノベーションです。理論に裏打ちされた現場を経験されてきた井上先生の下には、企業経営者や現場好きのゼミ生が集まっています。そのため各自の持つテーマも多種多様です。毎回ゼミ生が修論に結びつくテーマを発表し活発な議論が行われます。

本年度は5月に既に精神科クリニックの医療現場を視察して各自新たな知見を増やしました。2か月に一度は中小企業の現場に出てそこから今起こっている問題点を抉り、社会問題に置き換えて解決策を考えていく手法を常としています。

授業後には希望者で居酒屋授業を開催し、各自が自分の持つ現場の悩みをぶつけ合い、ゼミ生それぞれが異業種の立場から屈託なくアドバイスするような事も多々あります。

井上ゼミにはゼミ生みんなが充実した幸せな未来を追求できるよう、愉しさの中にもお互いが切磋琢磨して生きる知性と逞しさが満ちあふれています。

【樋口ゼミ CSR・消費者志向経営プログラム】

2018年4月、樋口ゼミは12名の新生を迎え、約30名の大所帯となつて今年の活動を始めました。2大テーマの「CSR・消費者志向経営」と「地域活性化」に関心をもつて集まったメンバーの顔ぶれは多様。毎回、先生のご指導のもと、幅の広い議論を行っています。

たとえばゲストスピーカーを招いて、横浜の中小企業支援政策、認知症にやさしいまちづくりなどの事例研究や、脳科学やアダム・スミスに関する書籍をテキストとして輪読、ディスカッションを行っています。

また、樋口ゼミでは毎年、横断ゼミ企画として視察旅行を実施しています。前年度は、大分県別府市を訪れ、別府温泉再生のリーダー鶴田浩一郎氏の講演会や、社会福祉法人「太陽の家」に隣接するオムロン太陽の工場見学を行いました。教室とは異なる現場の空気、共通の体験を通じて、有意義な意見交換となりました。なお、この視察の企画は1年生が行うことを恒例としており、今年も「持続可能な地域づくり」をテーマに岩手県・宮城県への視察を計画中です。

院生どうし互いに協力し、各自の研究

にとって良い刺激が生まれるゼミを目指して視察、演習に励んでいます。

◆横断ゼミプロジェクト2018◆

今年も各ゼミが特長をいかした調査研究、視察などを企画し、6月16日の発表会を通じて他ゼミからの参加を募り、実施しました。

各プロジェクトは下表の通りです。例年にならない、現在、活動報告書を作成しています。



横断ゼミプロジェクト発表会の様子(2018.6.16)

(編集) 2018年度ゼミ長会

※各ゼミ紹介の原稿は6月現在の情報です。事情により発行が遅れましたことをお詫びいたします。

2018年度横断ゼミプロジェクト

ゼミ	プロジェクト名
梅溪ゼミ	重回帰分析演習(9月)
石山ゼミ	雇用調査研究会～マクロミルを利用した量的調査(6月～)
高尾ゼミ	伝統や資源を生かしたまちづくり 小江戸川越のキーパーソンや人々のネットワークより学ぶ!(9/8～9/9)
上山ゼミ	「大学生まちづくりコンテスト2018」への参加(9月)
増淵ゼミ	増淵教授と行く湘南のコンテンツツーリズム(8/4～8/5)
山本ゼミ	浅草観光圏開発プログラム(11/10)
井上ゼミ	浜松市及び磐田市における中小企業と障害者雇用施設の視察(9/2～9/3)
樋口ゼミ	持続可能な地域づくりと地域活性化の研究(盛岡市、紫波町、花巻市視察)(9/7～9/9)